

武蔵野市第四期長期計画<計画案>に対する市民意見

分野	件名等	意見	
第四期長期計画の前提	市勢と将来展望	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進行中ないしは予定されている大型投資を要する諸事業の効果が、発揮された結果としての予想人口数値を明確化すべき。 ・将来人口を試算する前提として「なぜ過去において市の人口が減少してきたのか」についてのアンケート調査による分析が実施されていない。 	
	長期計画策定方式	<ul style="list-style-type: none"> ・長期計画策定方式を「武蔵野方式といわれる市民参加による策定方式」と評価しているが、市民参加ではなく、武蔵野市に在住する学者専門家が委員になっているというに過ぎない。 ・市の策定方法はもはや時代遅れだ。次の調整計画までに公募の市民委員を入れて、新しい策定方式を検討する委員会をつくるべきだ。 	
	これまでの成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園にクーラーを設置した上で、クーラー潰けにならない保育を目指してほしい。 ・環境が昔と違う。自然が一番と考えるのもいかなものか。 ・保育園のことについては、預けている親への説明をお願いする。 ・南保育園で「涼環境」の工事をしたが、効果はないようだ。わからないならば現場の意見を聞くべきだ。 ・安易に冷房に頼らず、色々な工夫をこれからも続け、冷房の密室に子どもたちを押し込めることにならないようにお願いする。この取り組みが、保育園のみならず他の施設や全家庭、車などに行われ、冷房の使用が減ることを切に祈る。 ・今年の夏の猛暑では「涼環境」は役に立たない。クーラーを設置して、適切に使用するなど、夏の暑さ対策を検討するという文言を計画に入れてほしい。 ・「涼環境」は、今年の猛暑に対応できない。早急に全園、全室に冷房をとりつけ、子どもたちに快適なめりはりのある環境をつくってほしい。 	
	人的サービスの質と倫理性	<ul style="list-style-type: none"> ・「倫理性」の説明が欠落している。 	
	健全な財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・「財政規律を守ること」は今までどのようであり、これからはどうするのか。 ・現行サービスは適正か、過大か。 ・歳出削減、収入増加策の具体的内容は、 ・ITの活用策として、庁内の書類を5年で半減することを目指してはどうか。 	
	コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が中心であることを明確に記述すべき。 	
	まちづくりの現状と課題、新たな視点	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と障害者の計画は区別して記述すべき。 ・施設サービスの不足について課題意識に乏しい。 ・受益者負担の強調は福祉を必要とする人々を経済的理由によって制度から排除する危険がある。 ・基幹的な福祉サービスは専門性の高い職員によって提供されるべきで、単なる行政の負担軽減を目的にするものであってはならない。 ・高齢者と障害者が一つの項目として取り上げられているが「障害者への支援」として独立した項目で取り上げてほしい。 	
	家族と教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「親子の絆を太く、強く」という表現は両親が共働き家庭からすると、母親が就労していることが問題かのような印象を受ける。文章の修正を求める。 ・「家族・家庭の役割」が過剰に強調されている。計画案は、人生観や家族観を市民に押しつけるものであってはならない。 ・子どもがどのように育っていくのか、条件整備を具体的に示すべき。 ・女性の社会参加の促進のための条件整備、具体的施策を明記すべき。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・「親子の絆を弱める恐れがある施策は親の要望が強くても慎重に取り扱う。」との記述があるが、親の切実な要望を無視しても絆は太くならない。絆を太くするためには、家庭の機能を回復させるためにどう親や家庭を援助できるのかという視点で考えるのが行政の役割だ。

分野		件名等	意見
<p>第四期長期計画の前提</p>	<p>まちづくりの現状と課題、新たな視点</p>	<p>家族と教育</p>	<p>・現在の国基準の低さを指摘し、国・都に対して国基準の引き上げを求めるべきであり、そのための職員配置や保育施設の理想・理念を全国に掲げるべき。 ・平成15年度の保育水準を守るため、国と東京都に対して、公立保育所運営費の一般財源化撤回、民間社会福祉施設サービス推進費補助事業の復元を求めるべき。 ・市の保育施策をあらためて見直し、保護者や保育士と共に考えるべき。その一歩として公立保育園改革をまず見直すべき。 ・真の全児童施策を作り上げるため、幼稚園、障がい児施策についても同様のことを行うべき。 「受診能力に関しては～」これらの能力を、伸ばしていけるような保育士や 学童指導員を配置させ、それらの教育や研修制度も充実させるようにして欲しい。 「言語教育の充実」のタイトルは「日本語教育」とすべき。 義務教育以降の高校・大学生に対するコメントがない。</p>
		<p>環境形成とまちづくり</p>	<p>スクラップ＆ビルド型の都市整備ではなく、武蔵野市のストックを活かし、成熟した都市を具現化するという前向きな課題を記述してほしい。そのための重要な手段が「都市景観の形成」だ。 「持続的なまちづくりの推進」にも景観整備の記載が必要。</p>
		<p>コミュニティと都市間交流</p>	<p>各コミセン施設については、大きな格差がある。各コミセンを見直し、もっと足元を固め、市民パワーの増大を図るべきである。格差の是正を図るということを長期計画の中に盛り込んでほしい。</p>
<p>まちづくりの目標と圏域ごとのまちづくり</p>	<p>まちづくりの目標</p>	<p>緑あふれる快適なまち</p>	<p>「生活環境を維持するために」は「都市環境の向上に向けて」とすべき。</p>
	<p>個性を活かした圏域ごとのまちづくり</p>	<p>市民と地域がつくる活力あるまち</p>	<p>今後、自主的な市民活動を側面から支援していくなら、保育園におけるNEWSの配布を禁止したり、中身について検閲したりすることはやめ、支援をお願いしたい。</p>
<p>施策の体系</p>	<p>優先施策</p>	<p>高齢者福祉施策の推進</p>	<p>在宅介護支援センターの介護保険部門のサービスを減らし、介護予防の機能を強化すべきだ。</p>
		<p>子ども施策の推進</p>	<p>公立保育園改革検討委員会では3年を目安に第三者委員会を設置し、公立保育園のあり方を検討することとなっている。「民間事業者との連携」を書くのは、約束が違う。</p>
		<p>武蔵境のまちづくりの完成</p>	<p>JR中央線連続立体交差事業、新公共施設の投資の影響を具体的に記述すべき。</p>
		<p>「障害者福祉施策の推進」の追加</p>	<p>「優先施策」に「障害者福祉施策の推進」を入れてほしい。</p>
	<p>健康・福祉</p>	<p>福祉</p>	<p>・70歳以上の高齢者はいろいろと問題を抱えている。その実態を行政はしっかりと把握してほしい。 ・在宅介護支援センターをもっと身近かなものにしてほしい。</p>
		<p>高齢者・障害者の雇用と自立支援</p>	<p>雇用の促進策として、多いに活用すべき。</p>
		<p>医療・保健</p>	<p>・医療機関へのMSW(メディカル・ソーシャル・ワーカー)の配置、ケア・マネとMSWとの連携 ・広域でのリハビリ病院の設置 ・全体として健康・医療関係の計画が少なすぎる。</p>
<p>介護保険</p>	<p>・家事参加援助、外出先への誘導歩道(てすりと腰掛け)の設置、お喋りの場の確保、自主的な体操クラブ・グループの設立・運営に対し補助金の支給を検討すべき。 ・ケア・マネの役割の重要性、ケア・マネのネットワーク化を重視すべきだ。 ・利用料の7%負担の廃止</p>		
		<p>介護保険</p>	<p>低所得者が制度から排除されるという介護保険の根本的問題点を国に対して指摘し、制度変更を迫るとともに、市独自の保険料の減免制度創設、利用料の助成制度の拡大が必要。</p>

分野	件名等	意見
<p style="text-align: center;">施策の体系</p>	<p style="text-align: center;">健康・福祉</p> <p style="text-align: center;">障害者福祉</p>	<p>・障害を持つ人とその家族が、一生を通じて安心、安全に暮らせるよう次の取り組みが必要。 < 幼児期 > 「子育て支援」において、早期診断から早期発達支援の体制づくり、療育相談施設の拡充と行政関係各課、医療、他のサービスとの連携の推進 < 学齢期 > 豊かな教育への支援、放課後・余暇への支援（計画では地域こども館、学童クラブの見直し等が掲げられているが、この推進にあたっては障害者福祉課と連携し、障害を持つ子どもたちの状況も十分に汲み取った上で見直しにあたってほしい。） < 成人期 > ・職場の選択肢の確保のために、福祉就労の場、とくに法内施設の新設・増設の実施、障害者人材センターの設置 ・自立生活の支援として、グループホーム、生活寮の設置、自立生活への段階的移行を援助する体験型グループホーム等各種サービスの設置の推進 < その他 > 送迎・移送サービスの拡充</p>
		<p>長期計画策定の折には、この要望を検討してほしい。 ・ショートステイ施設の充実 ・グループホームの充実 ・ヘルパーサービス制度の充実 ・就労への支援 ・身体障害者（重度・重複も含む）デイサービスの充実 ・地域リハビリテーションの充実 ・療育相談の場の設置 ・未就学の障害児保育と「べこのこ学級」との連携 ・「いぶき学級」の中等部の開級と重度障害児の受け入れ ・特別支援教育 ・障害児の放課後・余暇対策 ・学童クラブの入会資格制限枠の緩和 ・入浴サービスの充実 ・移動手段への支援 ・公共施設の整備 ・支援費支給量の流動化 ・愛の手帳判定の際の、的確な助言 ・武蔵野市民社会福祉協議会の障害者福祉に関する事業の充実</p>
		<p>前計画に記載されていた、障害別の記載が見当たらない。障害者福祉の推進を、優先施策に取り入れていただきたい。 障害者が地域の構成員として「共に生きる」ことができる社会をめざすことが貫かれていない。学齢期の障害児が地域で過ごすための学童クラブでの受け入れ態勢を拡充すべきである。 障害者福祉の基盤整備</p> <p>基盤整備が不十分である障害者福祉の分野において、専門性を有した人材の育成や人材配置の強化、サービス提供事業者の育成・開発、第三者評価等が必要。</p>
<p style="text-align: center;">子ども・教育</p>	<p style="text-align: center;">子ども施策</p>	<p>・中学校給食：栄養のバランス・安全性・メニューの多様さ・社交性等を考慮し、食教育にとってモデルとなる中学校給食を選択的に実施すべきだ。 ・学童クラブ：地域こども館などの全児童対策とは明確に異なる役割をもつ施策であることを明記すべきだ。また、学校内や隣接地への移転は早期に実施すべきだ。</p>
		<p>・長期計画案は大人サイドに立って考えられている。子どもの権利という視点に立ち、考えてほしい。 ・今まで武蔵野市が築き上げてきた保育施策の充実こそ、子育て支援策になると考える。乳幼児の育ちを「子どもの権利条約」に照らして具体的施策を実施してほしい。</p>
		<p>子育て支援</p> <p>女性の育児論は、どういった理由で賛成しているのか納得のいく説明をしてほしい。武蔵野市は育児については、親切ではなく、住みにくい。 各地域（生活圏）に小規模保育園の設置及び増設を提案する。</p>
		<p>子育て支援施策の充実</p> <p>働きながら子育てができるような社会システムの構築をお願いする。そのためには、保育園への補助金の継続を是非検討してほしい。</p>
		<p>子育て支援施設の整備</p> <p>南保育園・北町保育園に通う幼児の置かれている状況を勘案し、緊急避難的措置として、速やかな環境整備・改修の必要性を明記することを要望する。</p>

分野	件名等	意見
施策の体系	保育施策	子どもや親のニーズに応じた施策を行うのは大切だが、内容についても十分検討すべき。人員の配置や環境等、子どもたちが安心して生活できるよう予算を付けるべき。
	保育園職員体制	公立保育園において、一時保育などの子育て支援が行われているが、それに見合う人員の確保も必要。
	保育園の援助	保育士や栄養士の人員削減など、保育園への援助を減らすことをやめてほしい。
	保育園増設	国の待機児0作戦に準ずる具体的な施策がまったく明記されていない。公立保育園増設・認可外保育園の認可化を目指すなどの施策を盛り込んで欲しい。
		だれもが安心して働きつづけられるよう「待機児童解消のため、保育園の増設を検討する」という一文を入れて欲しい。
		派遣社員のため、仕事が来た際にすぐに入園できないと仕事を受けられない。保育園を増設して、待機児童を解消して欲しい。
	認可保育園を増設して欲しい。待機になるのがわかっていて子どもを産むのは、会社員としてリスクが高すぎる。	
	公立保育園の新設	武蔵野市の子どもを考えると、公立保育所の新設を要望する。
	保育園のサービス等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待について保育園にカウンセリング講座が必要。そのために職員の増員が必要。 ・都の基準では多様なサービスを行えないので、民間保育園の職員増等も検討してほしい。 ・幼保一元化では、保育園の食の水準を落とさないようにしてほしい。 ・東京都では様々な改革の動きがあるが、公的保育を企業にゆだねるような対応には、市としても都に意見を言ってほしい。
	保育サービスの拡充	地域への保育サービスも重要だが、それに見合った人員増と職員配置が必要。
	保育保障財源の確保	保育園費は市一般会計の5%程度であり、保育の質確保のための最低限のコストである。保育保障財源を確保し、今後更なる充実に向けていくことを要望する。
	保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・あれだけの予算を使って井戸を掘る必要があったのか。エアコンを取り付けて、上手に使えばいい。 ・保育園だけに限らず、公立はサービス精神がない。私立幼稚園は、面倒なこともいっさい園側が引き受けるという体制だが、保育園はああしてください、こうしてくださいと要求ばかりだ。
	公立保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・「望ましい環境を創出する」ではなく、具体的に公立保育園の未設置保育室にエアコンを設置すると明記して欲しい。 公立保育園改革計画では、保育の質が向上するとは思えない。「子どもにとっての保育の質が向上するように取り組む」の記述を望む。
行政の支援	縦のつながりでなく、横のつながり(例えば、学校-父母-地域の大人)を行政がどうサポートするか、はっきりさせて欲しい。	
子育て支援施設	桜堤児童館の0123施設への転用の考えを改め、別途、0123施設建設を求める。	
	次世代育成にさらなる支援を	待機児が出ないよう保育園を増やすなど、安心して子どもを産んで、安心して仕事をしながら子育てができる市になるよう取り組んでほしい。武蔵野市を愛し、今後も住み続けるために、次世代育成にさらなる支援をしてほしい。
	児童館	一館しかないので、増やすべきではないか。
	学童クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・「移転を推進する」ではなく、「即時移転に着手する」という表現に変えるべき。 ・学童クラブと地域子ども館とは別事業であるという表現を載せて欲しい。
		<ul style="list-style-type: none"> 学童クラブ保育指針(学童クラブ育成指針)の確立を明記して欲しい。 土曜日の学童クラブを再開するように長期計画の中に盛り込んで欲しい。
	「あそべえ」と「学童クラブ」のあり方	具体的検討の際は利用者の意見を聞き取るように求める。検討委員会等設置の際も利用者を参加させるようにして欲しい。

分野		件名等	意見
施策の体系	子ども・教育	桜堤児童館、0123、地域子ども館など	専門職のいる児童館の増設を希望する。0123のような特別のものや、専門のスタッフのいない地域子ども館よりも、児童館を積極的に評価する方向で、計画案を修正してほしい。
		境幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・境幼稚園の存在意義と今後の発展的解消の方法を、市民の声もとりにれた形で、慎重に検討してから実行に移してほしい。 ・廃園の時期の告知については、最低3年から5年をみて頂きたい。 ・境幼稚園で培われた幼児教育の成果を市立保育園で継承することは難しいのではないかと。 <p>子どもを安心して産み、育てていくのに、幼保一元化は正しい選択であるのか。</p> <p>子ども2人を境幼稚園に通わせてみて、境幼稚園の良さを実感している。境幼稚園の卒業生の保護者も大勢幼稚園の廃園に反対している。地域住民の声を聞いてほしい。</p>
		食の安全と管理	専門の知識をもつ栄養士、調理員がいてはじめて子どもたちの食の安全と管理ができる。コスト優先で、食品添加物が多量に入った企業的な安易な食の外注をよしとすることは、子どもたちの健康をないがしろにしているように思う。
		「身体・言語・自然」を重視した教育	「身体・言語」と「自然」を並べて記述するのは不自然。
		サポート制度、相談機能の充実	特別なケアの必要な子どもへの対応として、「特別支援教育体制」を積極的に早急に進める行動計画を要求する。また、「教育相談センター(仮称)」では18歳までの年齢を対象とし、自治体で責任を持つ相談センターとすべき。
		中学校給食	選択制の給食を導入してほしい。
			中学生までは栄養の計算された食事が必要。栄養が偏り、イライラする子どもを増やさないためにも、中学校給食の実現を希望する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・「昼食」を「給食」に改め具体的に推進する方向の議論にしてほしい。 ・「ほとんどの家庭が弁当を作ってきている事実」について、現状として給食はないのだから、作って持ってきているのは当然、削除を求める。
			親子の絆のためにも朝食の時間を家族でゆっくり過ごせるよう中学校給食の実施を望む。「中学校給食を検討する」という一文を入れて欲しい。
			弁当は夏は傷む。魚は匂うので入れられない。市長が弁当にこだわるのが理解できない。中学校給食を実施してほしい
中学校給食が導入されることを待ち望んでいる。			
中学生の昼食は「お弁当」と進めるならば、レシピなど見本(指導)をパンフ等で配布してほしい。			
	選択制の中学校給食の実施を盛り込んでほしい。		
		中学校給食	「桜堤調理場修理」と記載されていたので、大きく改修し、1.全中学校のスープ給食を作れるようにする。2.週に2~3日完全給食にする。1.2.がだめなら、せめてお弁当を持ってこれない生徒の対応に市が援助をしてほしい。
		青少年施策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育の拡充と地域子ども館の充実を求める。 ・小児医療の充実のため、乳児医療の無料化・利用年齢枠の拡大、及び夜間に一般小児診療が受けられる体制の整備を施策に盛り込んでほしい。
		青少年育成環境の整備	「青少年施設の充実」については、「青少年がそれぞれの趣味や興味を活かしながら、地域や社会と関わりを持つ機会を提供し、健全な市民意識を醸成するための支援をしていく」程度の表現を記述すべき。
		生涯学習施設の充実	「市域全体のキャンパス化」、「運営への民間ノウハウ活用」、「知的創造拠点としての整備」、「外部団体等への運営委託化検討」等充実・熟成されている。
		生涯学習施策	農水省跡地の新公共施設建設に伴い、機能が重複する施設の新たなあり方を探ると書かれているが、今ある施設をまず活かすべきだ。また、新公共施設の建設は市民参加で計画を見直し、規模を縮小すべきだ。
		市民会館	公会堂の改築に際しては市民会館のような社会教育施設も計画してほしい。市民会館の見直しの代わりに、文化事業団の諸施設、吉祥寺シアター、新公共施設、歴史資料館を再考してほしい。

分野		件名等	意見
施策の体系	子ども・教育	市民会館	生涯教育の拠点として機能してきた市民会館が最近「貸し室」になっている。市はきちんと生涯教育に取り組むべきだ。西部コミセンとの連携がとれないか。
		図書館	・新公共施設は図書館を核にするならば、図書館の“あらゆる市民に対する敷居の低さ”という特性を活かすべきだ。 ・「3館」という将来の発展可能性を閉ざしてしまう記述は削除すべき。
		西部図書館廃止	そのまま残してほしい。「文化の薫る街」としては、図書館の数が多いことも必要。
		新公共施設	高校・大学世代へは、コミュニティや地域づくり、福祉や社会人との接点などが必要だが、「新公共施設」だけでは、「新公共施設」が中途半端な詰め込み施設となってしまう。
		世代を超えた交流	お年寄りと子どもがふれあう機会や施設をつくって、地域がもっと親密になるしくみづくりをサポートしてもらいたい。住民の視点にたって、世代を超えた交流が可能となる福祉のあり方を追求してほしい。
		子どもたちの心身の健全な成長発達	子どもたちの心身の健全な成長発達を促すためには、夜早寝をさせること、昼間起きていて十分這い這いさせることが必要である。そこで、市としては、家庭で子育てをしている人を対象に、 1. 妊婦から2歳児までの親をリストアップし、常に把握する。 2. 子どもが這い這いできる場所を提供することが必要だ。
		障害児	・計画案に障害を持つ子どもに対する具体的施策が少なすぎる。 ・公立保育園改革計画の中で「全園での障害児受け入れ」が謳われているが、受け入れ態勢がそこまで整備されているのか疑問。障害を持つ子どもへの具体的施策を提言すべき。 障害児対策について、独立した章を設け、行政が率先して障害児対策に取り組むような記述を望む。
		少子化	武蔵野市の合計特殊出生率0.82人という現実に対して具体的な施策が明記されていない。数値目標等も含め具体的な施策を盛り込むようにしてほしい。
		有害化学物質による子どもへの健康被害	いわゆるシックスクールといわれるような問題を発生させないために、「シックスクール問題検討会」(仮称)を設置し、子どもたちの健康実態調査、室内空気汚染濃度の定期測定、学校関係者の意識啓発、今後の取り組みと対応策等を推進していくことが必要だ。
			緑・環境・市民生活
		商工業の振興	この10年来路線商店街はさびれるばかりだが、外出もままならない老人たちにとっては生鮮品もたやすく近所で手に入らず死活問題となる。商店街の施設設備と個々の店の魅力向上、売上増進が図れるような予算を求めらる。
	緑・環境・市民生活	都市観光の推進	目先の経済優先の観光地づくりを誘発する可能性のある表現となっている。
		防犯	防犯や犯罪被害相談について行政および民間組織の設置が必要ではないか。
		男女共同参画	ヒューマンネットワークセンターの相談機能の充実、専門的知識をもつスタッフの確保と適切な報酬確保のための予算を増額すべきだ。
		ヒューマンネットワークセンター	ヒューマンネットワークセンターの位置づけと体制の見直し、拠点となる場所について検討してほしい。
		国内都市交流・協力の推進	今後のステップとして、田舎を持たない市民のため、“本格的なふるさと戦略”を打ち出すべき。
		公会堂エレベーター	公会堂にエレベーターが欲しい。
		歴史資料館	歴史資料館建設絶対反対。
		まちづくり	まちづくり条例、景観条例の制定の提案は評価する。特定地域での建物の高さ制限、紛争時における市の役割などについて、踏み込んだ内容の条例とすべきだ。
		景観条例	景観条例の制定まではよいが、公共部分の景観コントロールだけでなく、民間部分の誘導や規制にも踏み込む意欲は出てこないのか。
		公的住宅建替事業	公的住宅建替事業もPF1やNPMの新しい手法で推進すべき。
歩道		吉祥寺南町井の頭線ガード下周辺は、歩道が傾いていて歩きづらい。	

分野	件名等	意見	
<p>施策の体系</p> <p>都市基盤</p>	<p>外かく環状道路</p>	<p>・大深度地下方式に決定したような表現がなされているが、国土交通省はこれをたたき台にして議論をしようとしている。修正されたい。</p> <p>・地上部は、現況の状態でも可能だと国・都は説明しており、まだ決定もされていないところで、「地上部のまちづくり」について記述されることは地元住民を翻弄する行為。グリーンベルト構想としての提案も、外環計画とは別問題。</p> <p>・市と地元住民と話し合いも行なわれていない現状の中で、どういふ「多面的な観点により議論」をしようというのか、このような記述は住民無視も甚しい。</p> <p>・外環計画・地上部分については「必要性の議論」を進めなければならないが、「外環ありき」「地上部分ありき」を前提として「積極的に対応する」ことは大きな問題。</p> <p>・PI協議会が必要性の有無に関する討議を実施中であり、PI協議会の存在意義を否定するように受け取れる。</p> <p>・一般の市民は地上部に何の変化も起こらないと考えがちであるため、先ずこの誤解を市民から解く記述が必要。</p> <p>・側道を付加すれば、大深度の高速道を回避する車が増えるのではないかと。</p> <p>・地上部が道路化した場合、環境問題、まちの分断等が起こる。</p> <p>・通学上の危険や福祉のまちづくりの視点に立って、大深度方式が地上部分を含めた危険な且つ二重投資的道路だということを、はっきり市民に知らせて反対を表明して欲しい。</p> <p>・大深度でもインターチェンジやジャンクションがある以上、生活道路に混雑が生ずる。</p> <p>大深度地下方式でも建設に反対。地上部に道路ができるのであれば、地元の住民は反対する。長期計画では武蔵野市の環境を守り、住民の声、意思を大事にして記述してほしい。</p> <p>沿線の多くの住民は計画に不安を持っている。PI協議会で議論が続いている状況であり、このような状況への認識と「住民の意思の尊重」を明記すべきである。</p>	
	<p>駅エスカレーター・エレベーター</p>	<p>吉祥寺駅下りエスカレーター及びエレベーターが欲しい。</p>	
<p>施策の体系</p> <p>都市基盤</p>	<p>三鷹駅北口</p>	<p>・三鷹駅北口の駅前広場を、長期計画の中で人優先のロータリーに改造する方向を探してほしい。その際は、駅前に残された緑豊かな景観に配慮しつつ整備計画を策定してほしい。</p> <p>・中町二丁目にある駐輪場は高度利用を含めた利用方法を検討する必要がある。具体的な利用計画の検討のため、委員会の設置が必要である。</p> <p>・暫定駐輪場のために広い歩道が全く活かされておらず、また北口駅前の景観を損ねている。暫定駐輪場の解消を早期実現してほしい。</p> <p>・身の回り品くらいは身近で買ってもらえる程度の商業面の整備が必要。また、三鷹駅地区は小規模な路線商店が点在しているが、弱小な路線商店の育成について配慮願いたい。</p> <p>・今後梅林がどう開発されるかわからないが、「文化会館通り」、「かたらいの道」と呼ばれている通りの名前に相応しい開発が行われるよう指導力を発揮し、整備してほしい。</p> <p>・第三期長期計画第二次調整計画に記述のある「自然ゾーンの形成」について再度記述してほしい。さらに、境の「独歩の森」、「青年の家跡地」などを玉川上水で結んだ緑豊かな面的整備を望む。</p> <p>・東西補助幹線の推進はもとより、将来に向けて個性的な魅力ある街づくりのための計画策定のために早急に踏み出すことを計画に盛り込んでほしい。</p>	
	<p>武蔵境駅</p>	<p>駅舎がどうなるのか、市報などで情報提供をし、利用者の意見を聞いてほしい。</p>	
	<p>行・財政</p>	<p>柔軟な組織の確立と職員育成</p>	<p>特に子ども対人サービスにおける職員配置には注意していただきたい。</p>
		<p>職員数、市議会議員数</p>	<p>「新たなニーズをつかむ感度とセンス」は「柔軟で鋭い感覚と高い感度」とすべき。</p>
		<p>公の施設の管理運営</p>	<p>職員数、市議会議員数の具体的削減方針を明記すべき。</p>
<p>民間委託</p>		<p>「指定管理者制度の導入」とあるが、子ども施策等にこの制度の導入はしないで欲しい。</p>	
<p>使用料・手数料の見直し</p>	<p>コスト面からは委託だが、市民としては「安心」できない。</p> <p>保育園という特性上、受益者負担という考えはなじむものではない。「保育料」という一文を削除して欲しい。</p>		
<p>施策の体系・財政計画</p>	<p>行・財政 財政計画の策定の考え方</p> <p>財政見通しと行財政改革</p>	<p>・財政見通しの市税収入は根拠が不明確。固定資産税は負担軽減をはかるべき。</p> <p>・行財政改革については、外部監査制度の導入は評価できるが、具体性に欠ける。</p> <p>・入札制度改革、補助金制度改革、財政援助出資団体の改廃も含めた見直し、市職員の天下りの禁止を明記すべきだ。</p> <p>・市民の直接的市政参加を保障する市民投票条例を制定すべきだ。</p>	

分野		件名等	意見
		投資的経費	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間の計画が示されているが、各年度の内訳や大型公共事業の全体での金額の根拠が不明確。 ・ここ数年で大きな財政負担となる「防災安全センター」や「知的創造拠点」は計画を見直し、縮小し、高齢者・障害者の福祉施設や中学校給食などの子ども施策を充実すべきだ。
財政計画		財政予測	<ul style="list-style-type: none"> ・図・表においても計画期間10年間の目標数値・期待数値を表示すべき。 ・人件費について、予測可能な人員数の増減を表示すべき。
全般	全体について	基本理念	計画の「基本理念」ないしは「基本方針」が明確に記述されていない。本文中に重要なキーワードが数点あるので、これらをまとめて理念とすればよい。
		子育て支援施策全般	子ども自身のニーズを重視する、全人的な教育を社会の中に位置づける、武蔵境圏を「子育てにやさしいまち」としてまちづくりを進める、社会全体で子育て家庭を支援する、という考えに賛同する。是非進めてほしい。
	その他	福祉施策へのコスト	福祉施策について安易なコスト論を持ち出すのはいかがなものか。